特集「ランドスケープの仕事」にあたって

The Profession of Landscape Architecture

大野　暁彦*　近藤　　卓**　竹内　智子***
Akihiko ONO　Taku KONDO　Tomoko TAKEUCHI

当学会誌の名称が「造園雑誌」から「ランドスケープ研究」に変更したのが1994年である。また1992年には学会の全国大会特別分科会にて「造園の職能と教育一問題所在と解決への方向一」が開催され，学会では久しぶりに職能問題を題材とする大きな動きがあった。そして翌年の1993年には学会誌で「造園家（ランドスケープ・アーキテクト）に期待する」が特集され，計画及び設計者の幅広い活躍に期待が込められた。ランドスケープという言葉は以前からも扱われていたが，90年代になると勢いを増して大きく取り上げられるようになった。造園にとって替わる言葉なのか，それとも別の言葉なのか，そもそも造園かランドスケープの二元論自体がナンセンスなのか。当時はその問題に多くの方が翻弄され，記憶に残っている方も多いと思われる。

それから20年が過ぎた。この問題は少なからずまだ残っていると思われるが，次なる大きな問題に移行している。昨年，2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて我々の業界が相当揺さぶれたことは社会的にも前特集においても触れたとおりである。我々はどこまで，何ができるのか，またはすべきなのか。90年代から経験している造園とは何か，ランドスケープとは何かという我々の存在意義への自問自答は，20年経っても本質的な問題として変わらずにそこにあり続けている。

前特集では東京オリンピック・パラリンピックという題材を通して，我々の立脚点や可能性を示唆することができた。本特集では更に原点にもどり，造園及びランドスケープに携わる現場の生の声を集め，職能・職域の現状をあぶり出すことを目的としたい。

構成としては，第一部は今まで職能問題に取り組んでこられた学識経験者の代表として進士五十八先生，実務者の代表として戸田芳樹氏に職能問題の今までとこれからについて語って頂く。第二部では各方面の現場で活躍されている方々に現状をレポートして頂く。分野としては行政，調査，計画，設計，施工，維持管理分野の他に，それらを支える分野や関連分野として教育，資格制度，雑誌メディア，新規事業，都市建築及び土木分野まで，紙幅が許す限り広く集めていく。そして最後の第三部においては第一部及び第二部の内容をもとに編集委員にて総括する。

読者アンケートのお願い

編集委員会では，今後の誌面づくりの参考とするため，特集内容に関する学会員の皆さまからのご意見を募集しております。件名に特集タイトルをご記入の上，①氏名，②所属，③連絡先（e-mailなど），④特集に関するご意見等（400字程度）を下記のアドレスまでご投稿ください。なお，ご記入頂きました個人情報につきましては適正に管理し，ご意見の内容に関する連絡等に利用させて頂く場合がございます。ご意見に対する個別の回答は致しませんのでご了承ください。
［読者アンケート送信先アドレス：hensyu@jila-zouen.org］

*中央大学　**近藤卓デザイン事務所　***東京都